

令和四年度 東国文化自由研究

群馬の魅力を伝えたい！
～古墳による群馬の魅力度アップのための道のり～

群馬県立中央中等教育学校
1年2組 中澤知里（返却希望）

1.はじめに

〈テーマ〉

私は、東国文化について調べ、かつて東国一栄えたことで今も多くの古墳が残っている群馬県を活性化させるとしたら、どんなことができるだろうかと考えた。

〈理由〉

私が東国文化について調べる理由として、主に2つ挙げられる。

①私自身古墳時代に興味があり、古墳はおもしろく、その中で、古墳は子どもから大人まで、幅広い世代が興味を持てるものだと思うからだ。その古墳に隠された歴史、造形、また、周りにある埴輪など、多種多様な魅力が秘められている。埴輪のような特徴的な造形ものは子どもたちの興味を引き立てる。また、日本の歴史に興味のある方も多いと思うので、こちらにも親しみを持ってもらえると思われる。

②2020年9月、群馬県高崎市にある綿貫観音山古墳の出土品が国宝に指定された。これにより群馬県は群馬県立博物館などの大型施設により古墳を伝えるための展示に力を入れた。このことから、古墳がさらに人々の注目を浴びやすくなったため、今一度古墳の存在を全国へ伝える良い機会だと思ったからだ。

【古墳とは】

ここで述べる古墳とは、主に3世紀の中ごろから7世紀にかけて造られた土を盛ったお墓のこと。

～主な古墳の情報～

- ・円墳、方墳、前方後円墳など、種類は様々。
- ・豪族の墓であることがほとんどである。
- ・古墳は、政治的・社会的記念物でもある。
- ・古墳の大きさは権力の象徴
- ・副葬品は呪術的なもの
- ・古墳の造形で他国と繋がりがあったかを知ることができる

2. 本論

私が調べるに当たって、テーマに対する解決したい問いを挙げると、

1. どうしたら群馬県を訪れる人が古墳に興味を持ち、古墳の魅力をより感じてくれるのか
2. 古墳の課題（下記のとおり）解決にはどのような取り組みが必要かの2つである。

古墳には魅力的な要素が多いが、それを多くの人が理解するには訪れる側の立場になって考える必要がある。今回はそのことを第一としてレポートを書いていきたい。

次に、この解決したい問いの背景、課題、理由を挙げる。

私は、「自分の立場から見た感想」「インターネット」の2つの方法で、いま群馬の古墳がおかれている状況を予測・調査した。

(1)自分の立場から

課題①古墳のイメージの悪さ

群馬の古墳と聞くと、私の予想では、「大きな山らしき何か」「地味な観光地」などということ挙がってくるような気がするのだ。そもそも群馬の知名度はあまり良くないものであった記憶がある。

課題②解説が難しくなる

資料館などの施設へ行ったとしても、古墳の解説には多くの難解な専門用語、長い文章がつきものになってしまい、子供や若年層に興味をもってもらえなくなっている気がする。

(2) インターネットから

背景①綿貫観音山古墳とその宝具が国宝に指定される

これにより、群馬県立歴史博物館が大々的に展示を始めた。

→群馬県知事が歴史博物館を紹介しているときもあった。

背景②CMに取り上げられ一躍話題に

JR東日本のCMに大室古墳群が取り上げられ、かみつけの里博物館の来場者数が約10倍になっていた。

課題①崩壊、腐食のおそれ

綿貫観音山古墳のように大きな古墳ではなく、住宅地の片隅にあるような古墳は地震などのふとしたはずみで崩壊してしまうらしい。他にも、奈良県にある高松塚古墳の飛鳥美人絵画は、カビに侵され、今後は密閉することも視野に入れているようだ。

課題②古墳の管理費・管理人不足

古墳の管理のためには、やはり多額の費用が必要となっており、それは多くの観光客を呼ぶことができなければまかなえないため、深刻な問題となっている。また、その古墳を管理する人が足りておらず、課題①の問題ともリンクしている。

《仮説》

現時点での知識を元に、「観光客アップ計画（仮）」を立てた。

まず、群馬の知名度を上げるために引き続きCMなどのメディアを利用し、県内外問わず古墳をより身近に感じてもらう。それによって人から注目されればボランティアなども募りやすくなり、人手不足も解消されるのではないだろうか。

最後にもう一度研究の結果を含めてもう一度「観光客アップ計画」を立て、古墳の課題を解決したい。

《調査》

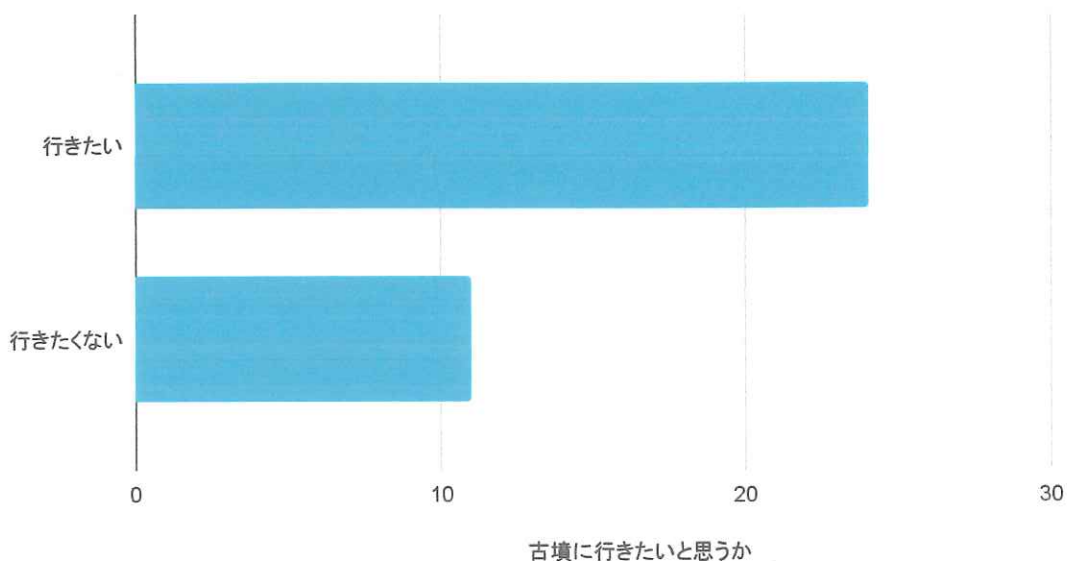
次に私は、身近な人（県外含む）からアンケートをとり、古墳についての意識を調査した。

質問した内容は、以下のものである。

- ①古墳のイメージを教えてください
- ②実際に古墳に行きたいと思いますか
- ③古墳について最近印象に残っていることはありますか

これをアンケートしたところ、以下のような結果が得られた。

古墳に行きたいと思うか



35人に調査

また、「行ってみたい」と答えた人の理由としては、

- ・実際に古墳を見たことがないから
- ・面白そうだから

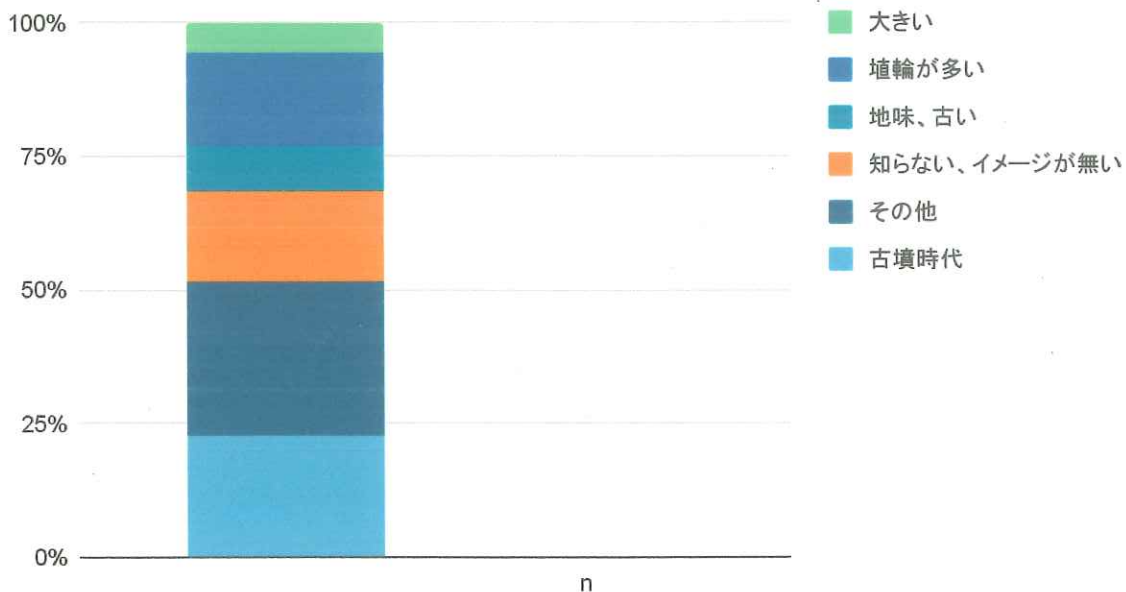
など、古墳という存在に興味を持ってくれた人もいた。

「行ってみたいくない」と答えた人は、

- ・興味がないから
- ・行くための手段が無い、行き方がわからない

という意見が寄せられ、まだ設備不足や、魅力不足が感じられた。

古墳のイメージ



35人に調査

《群馬の古墳のイメージ》

図によると、古墳のイメージには、図の通り、埴輪が多い、古墳時代という印象が強いと感じた。その一方で、知らない、イメージがないという意見も多かった。

よって、群馬の古墳のイメージはあまり良いものではなく、地味・古いという後ろ向きな意見が挙げられたほか、そもそも群馬に古墳があることを知らなかった、という意見も多く挙げられた。

古墳について最近印象に残っていること、群馬の古墳について知っていることとすれば、

- ・仁徳天皇陵古墳が仁徳天皇のものではないかもしれないということ
- ・山崎合戦の明智光秀本陣が恵解山古墳に設置されていたらしい
- ・CMで見た
- ・家の近くにある

などが挙げられたが群馬の古墳、というわけではないのでまだアピールが足りないと感じた。

その一方で、《そもそも目にしていない》という意見も多く寄せられたため、古墳の知名度には、やはり課題が残っていたことがわかる。

《現地調査》

実際に古墳、歴史博物館へ行き、私自身が感じたことをまとめる。

訪れた場所

- ・史跡観音山古墳
- ・群馬県立歴史博物館
- ・七輿山古墳
- ・太田天神山古墳

等々

〈群馬県立歴史博物館〉

参考になった点

- ・文面で説明しているものだけではなく、それと同じ内容をスマホアプリで解説していることによって、映像などでの説明も可能になっていた
- ・写真での解説が多かった
- ・内装としては、特に目立たせたい観音山古墳を解説しているブースでは、照明を落とし、必要な部分だけライトアップしており、重厚感が生まれていた。また、展示方法では、出土した埴輪を大量に飾るのではなく、違うタイプの埴輪をそれぞれ紹介することで訪れた人が飽きない工夫をしていると感じた。
- ・また、ここまでの展示は、一見大人向けだと思うかもしれないが、最後のブースにデジタル埴輪展という新しい展示を行っていた。ここには、埴輪にちなんだゲームや3D化した埴輪が置かれたり、手をかざすと画面上の埴輪を動かすことができる楽しいスペースもあった。

このように大人から子供までがしっかり古墳、埴輪について学ぶことができるのが魅力だと感じた。

〈史跡観音山古墳—高崎市〉

こちらは歴史博物館の凝った展示に比べ、質素な作りではあったが、看板などで補足説明があり、十分興味が持てた。また、手入れも行き届いており、小さい子供と安心して出向くことのできる場所だと思う。ただ、県外から来たり、古墳を初めて見る人にとっては物足りなさを感じるかもしれない。



史跡観音山古墳

〈七輿山古墳—藤岡市〉

七輿山古墳は東日本でもかなりの大きさだそうで、私が実際に行ったときもその大きさに圧倒された。しかし、中に入ると、かなり鬱蒼とした雰囲気の中で歩いていて少しハラハラする場面もあり、家族で観光に出かけ訪れる地には向いていない気がした。太田天神山古墳も似たような雰囲気、古墳の観光客数不足の原因が垣間見えた。



七輿山古墳



太田天神山古墳

しかし、やはり古墳は大きさ、構造など興味深いものが多くあり、太田天神山古墳などは東日本でも最大級の古墳である。面白いものであり、ぜひとも県内外の人に知ってもらいたいものでもある。また、資料館などは有名な建築家が手掛けたものも多く、それも魅力の一つとなっていた。

以上のことから、私は調査の結果を踏まえて新たな「群馬県の観光客アップ計画」を考えてみた。

3. 観光客アップ計画（まとめ）

まず、古墳に来てもらうためにどんな取り組みをするか、というところだが、私は群馬の古墳の存在をもっと認知して貰う必要があるとアンケートの結果から学んだ。また、ネットで調べたところ古墳を特集したあるCMにより、観光客数が急激に上昇した、というニュースがあり（*1）、メディア効果を再確認できた。ここから計画できることは、まずはメディア（テレビ、SNSなど）を活用し古墳の認知度を上げるということだ。人気のあるテレビ番組に特集されれば、人目につき、訪れたいと思う人が出てくるかもしれない。実際に、あるテレビ番組では群馬の古墳が紹介され、アンケートではそのことに触れる回答もあった。さらにSNSにより実際に行った人が高評価をすれば古墳へ行く人が増える可能性も高くなるだろう。しかし、実際はそう簡単にはいかないかも知れない。そもそも古墳に魅力があるとわかってもらえなければいけないので、まずは古墳より群馬県立歴史博物館の存在をアピールするのが必要なのではないかと思う。歴史博物館の魅力としては、

- ・大人から子供まで楽しむことができる。
- ・わかりやすく、専門的な知識まで解説してくれる

というものが挙げられる。そこを訪れる人々の目線で語りかけていけば、より説得力が増す。

さらに、アンケートの回答の中で交通機関が充実していない、わざわざ古墳のために行くのは負担だ、という意見があった。そこから考えたのは、1度古墳、その周辺の資料館に訪れ、申請すると、県内、または市内のいくつかの有名観光地での観光費用が割引される制度、過去の取り組みだと「Go to travel」のようなものを設けたら良いのではないかと考える。そうすることで、古墳だけでなく他にも訪れる場所が見つかり、せっかくだからその制度を利用して群馬で旅行しようと言う人も現れるかもしれない。

しかし、ここで私が感じた古墳の危機として最も大きかったものが、古墳の手入れ状況である。前述したとおり、古墳の多くは草木が生い茂り、鬱蒼としているところがほとんどであり、実際に中に入っていくのはなかなか勇気が必要になってくる。重要な文化財でもあるため簡単には手入れできない。そこで、古墳の中に入るツアーのようなものを立て、その道の専門家の知識を聞きながら安全に古墳に訪れることができる企画を行う、ということを提案の一つとして思い浮かべた。もちろんこれは人が集まってこそそのものなので最善とは言えないが、安全面ではかなり信頼できる策ではないだろうか。

古墳の課題の一つとして崩壊、腐敗のおそれ、人手不足、というのがあったが、古墳に興味をもってくれる子供を中心とした次世代が育まれれば、この先の人手不足にも対処できるのでは、と思う。

このように、古墳により群馬県、東国文化を守ることができたら、古墳時代の新たな歴史的発見も進むかもしれない。まだまだ古墳の課題は多く、簡単には解決しないことが多いが、歴史に興味のある人はぜひ古墳時代にも意識を向けてほしい。

* 1 <https://takasaki.keizai.biz/headline/3692/>
高崎前橋経済新聞より参照